



生物多様性～森林が育む、地球の生命～



地球にはたくさんの生物が暮らしています。

動物や魚、虫や草木、もちろん私たち人間も生きてゆくには、ほかの生物を食べたり、あるいは食べられたりしながら、太古の昔から命をつないできました。

そうした生物たちが生きていくためには、それらを育んでくれる環境が必要です。色々な生息・生育環境があることでたくさんの種類や個性（遺伝子）を持った生物が生きていることを生物多様性せいぶつたようせいといいます。

私たちが住むこの地球には、そういった多種多様な生命たちが生きる事の出来る素晴らしい環境がそなわっています。

その中で森林は、世界の陸地面積の約30%を占め、陸上の生物の約80%が森林で生活しているといわれています。

森林には本来の姿を残した天然林や人の手が加わっている人工林などがあり、森林の周辺には高山地帯から湿原など様々な環境が見られます。

こうした豊かな環境を利用しながら様々な生物たちが暮らす森林は、生物たちが次の世代へと命のバトンタッチほかんこをしていく大事な「種や遺伝子の保管庫」となっているのです。

そのような生物多様性はもちろんこの「カムイコタン歴舟の森」の森林にもひろがっていて、この森が蓄えた豊かな水は、そこに住む生き物たちを育み、歴舟川につながり、農地や牧草地などに利用されながら人間の暮らしを支えつつ、やがて太平洋へとつながり、森林とは異なった様々な生態系せいたいけいと結び付いています。

このように森林は生物多様性を守っていくために重要な存在であると同時に、私たち人間が暮らしていくためにも欠かせない地球からの大事な贈り物なのです。

森にはたくさんの命が
その恵みを受けて生きているよ。
そしてまた新しい命を
つないでいくんだ。

遊々の森
「カムイコタン
歴舟の森」

豊かな森は林業やアウトドア、
それにみんなの学習の場にと
大活躍しているよ。

歴舟川

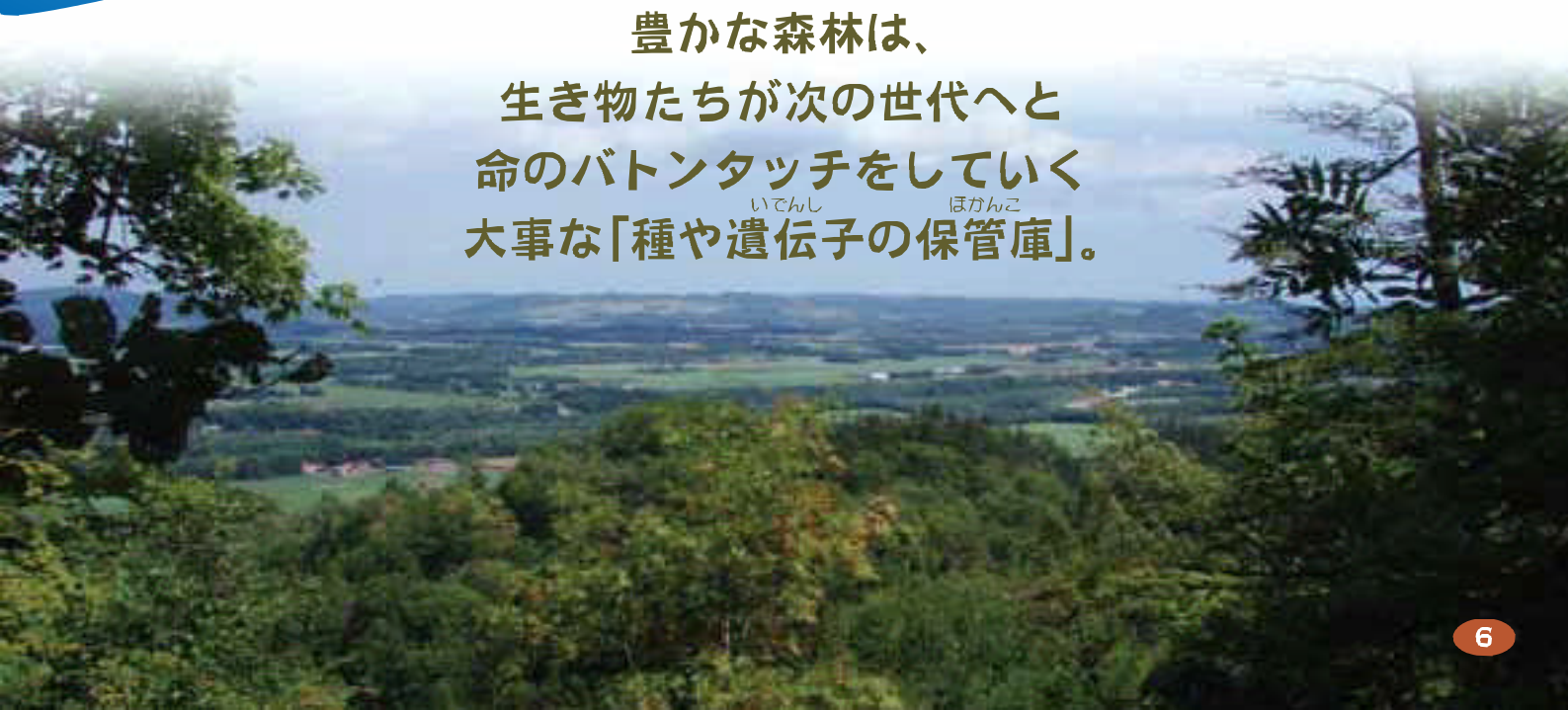
川の水は農業や酪農、
それにみんなの
暮らしに利用されているよ。

太平洋

森の栄養分をたっぷり含んだ
川の水はやがて海に流れ
海の生態系や漁業を支えているよ。

豊かな森林は、

生き物たちが次の世代へと
命のバトンタッチをしていく
大事な「種や遺伝子^{いでんし}の保管庫^{ほかんこ}」。





森林は様々な役割をしてくれる働きもの

くの野生動物や植物の生息や生育の場所になっているのと同時に、きれいな水や空気を育み、山崩れや洪水の防止といった色々な効果を発揮します。また、木材やキノコなど林産物りんさんぶつを供給する場となっているなど、人々の生活のためにたくさんの恵みをもたらしてくれます。これらのような、森林があることでもたらされる色々な効果のことを「森林の多面的な機能」や「公益的な機能こうえきてき」といい、地球環境とも大きくかかわっています。

例えば、

- 地球温暖化の原因の1つである二酸化炭素にさんかたんそを長期間にわたり蓄える。たくわ
- 地面に水を蓄え、時間をかけながら川へと流してくれる。
- 深くはった根で岩を抱え込み、地面を固定して山崩れや洪水から山を守ってくれる。
- 風や霧、ちり・ほこり、騒音などを防いだり、急激な温度変化をやわらげることにより生物や人間が暮らす自然環境を整えてくれる。
- レジャーやアウトドアスポーツの場などを提供、また学習の場所としても利用されるなどして地域の人たちの豊かな暮らしを支えてくれる。

森は恵みを与えて 人々の 暮らしを ささえます。

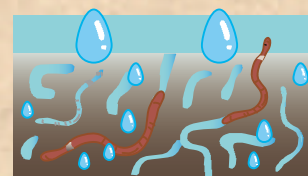


森林は恵みの宝庫です。例えば、家を建てたり、橋を造ったりするための木材、キノコや木の実、野草などの食べ物など。森林のまわりに暮らす人々は昔からこの森の恵みに助けられ、林業などをいとなみながら森とともに暮らしてきました。また、近年ではこの豊かな自然環境はアウトドアスポーツやハイキングの場としても利用され、人々の健康や心のいやしにも役立っています。



森は水を蓄えます。

森林の土の中には、木の根やミミズなど地中で生きる生物の活動により、たくさんのすき間が出来ています。森林の土は巨大なスポンジのようなものです。降った雨は一時このすき間にためられ、時間をかけて川に流れ出します。このように森林は水の流れを時間的に調節してくれます。



森は二酸化炭素(CO²) を吸収します。

次のページで詳しく説明します。

CO²

CO²

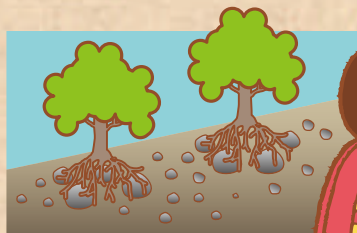
CO²

CO²

CO²

森は山崩れや 洪水を防ぎます。

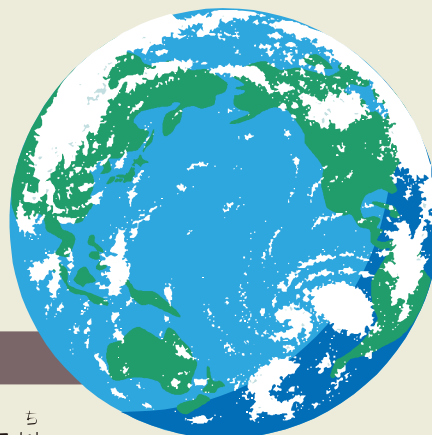
木の根は土や石を抱きかかえるように地中深くのびていきます。木の集まりである森林では、木の根がたがいに重なりあってのびるので、網の目のようになり、土や石をしっかりとさえます。



森は自然環境を 整えて生物たちの 暮らしを助けます。

森林はたくさんの葉をつけ、互いに密集して壁をつくる事によって、騒音や強い風、霧、空気中をただようちりやほこりなどから守ってくれます。また、木陰などで急激な気温の変化をやわらげながらも適度な水分を溜め込み、大地の乾燥から生物が快適に生きる環境を助けています。





森林は地球を救う!?

現在、自然環境の破壊や温室効果ガスの増加による地球温暖化などが大きな問題になっています。

急激な地球温暖化の進行は、異常気象による災害の発生や、動植物のすみ場所の移動によって病原体がひろがるなど、人々の生活に影響をおよぼし始めています。自然環境の破壊や地球温暖化の進行は、「生物多様性」を低下させることでもあり、これは「森林の多面的な機能」の低下にもつながっていきます。

国際社会では、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を減らすための話し合いが進められていますが、世界的な話し合いはついていません。

植物は、太陽の光と水と二酸化炭素を利用して、植物が生長するために必要な炭水化物などの養分をつくります。この作用によって、植物に二酸化炭素が取り込まれ、人間をはじめとする動物や植物が生きていくため（植物も動物と同じように呼吸しています）に必要な酸素がつくられます。これを光合成といいます。

植物の中でも樹木は太く、大きくなる種類があり、また、大きく育つまでの時間も長いことから二酸化炭素を長い期間、貯蔵できることになります。樹木がたくさん集まっている森林は、それだけ大きな二酸化炭素を蓄える場所（吸収源）としての大きな役割が期待されています。

二酸化炭素の吸収源となる森林を守っていくことは、多くの野生動植物の生息・生育の場所を守っていく、すなわち生物多様性を維持・保全することと同時に、私たち人間の生活を安定させていくことにもつながっていくと言えます。



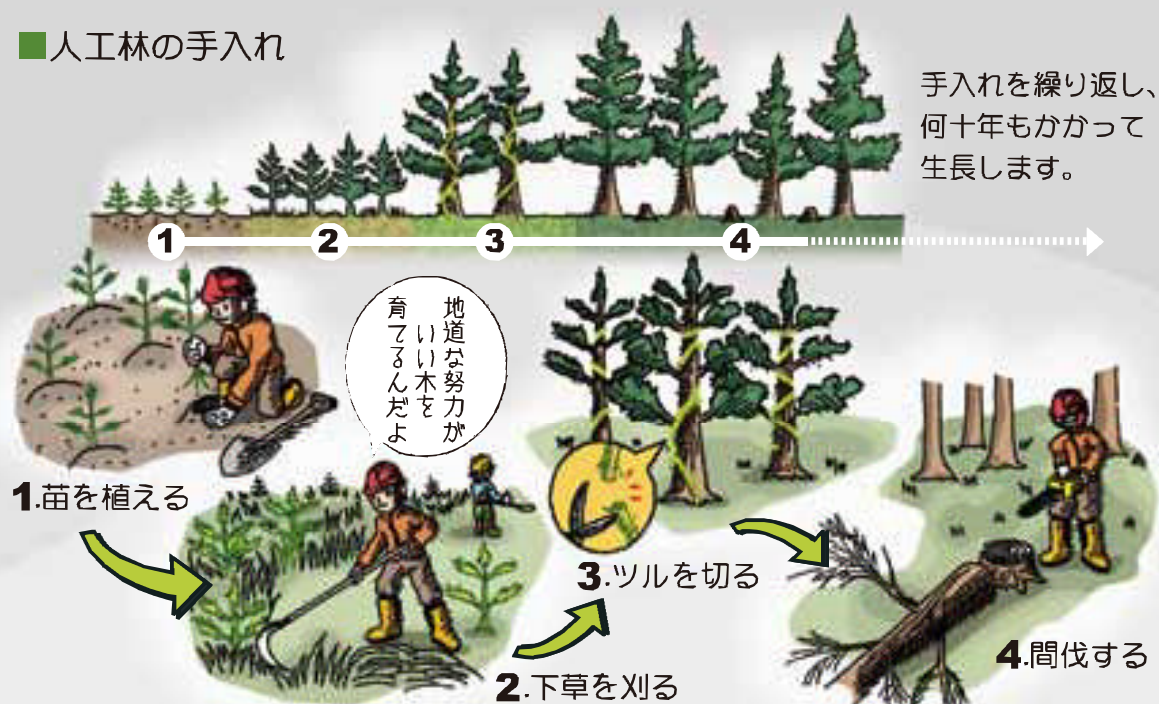


大樹町の豊かな森を守るためにできること



遊々の森「カムイコタン歴舟の森」がある大樹町の森林は、町の面積のうち約70%を占めており、大樹町の林業は、恵まれた森林資源を背景に、農業、漁業とともに基幹産業として、大樹町の発展に重要な役割を果たしてきました。しかし、近年は国産材の価格低迷がつづくなど、林業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。林業は、植えてから何十年もの長い間、手入れをして木を育てます。その後、育てた木を伐採して初めて利益を得ることができます。木がしっかり育つためには山崩れなどがなく、台風や洪水、大雪などで木が倒れないような安定した土壌や気象が長い年月つづいていくことが必要です。今後、林業を続けていくためには、「森林の多面的な機能」を保ち続け、また、機能を高める（質を向上させる）ような森林の管理が求められています。

■人工林の手入れ



植樹

将来の資源を確保していくために新しい苗を植え、森の管理に手間と時間をかけて育てていきます。



植えた木が
大人の木になるまでに
何十年もかかるんだよ。

間伐と伐採

植えた木がより多くの土の栄養分を取り込んで大きく育つように、密集しすぎた木を間引いていくことを間伐といいます。このような手入れを何十年も続けながらようやく生長した木を伐採する事が出来るのです。



林業

伐るだけでなく、
育てながら森とともに歩む。
林業は森と仲良しの
産業なんだよ。



製品

製材工場で加工されて製品となった木たちは、何十年の間を経て、建築材や家具、調理用品（まな板、木べら）など様々な木工品として、人々の暮らしの役に立っています。



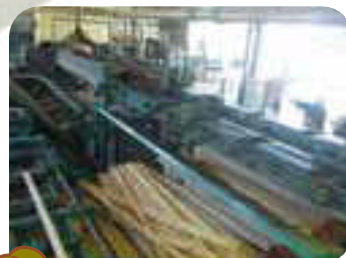
製材工場

加工

伐採された木は、製材工場などに運ばれて様々な製品に加工されます。最近では、建築材や木工品としてだけではなく、ペレット燃料や梱包材などにも使われています。



【製品】カラマツ材の梱包材



製材工場内部

大樹町の林業

●森林組合の仕事

大樹町森林組合では、植林や下草刈り、間伐など、森林の整備を行っています。また、オガ粉の生産もしています。オガ粉は、製材に不向きな曲がった木や細い木、間伐材などを有効に使うために細かく砕いて製品にしたもので、酪農が盛んな大樹町では多くが家畜の敷材（ベット）として使われます。敷材に使われたオガ粉は肥料になることから、最後は畑などに使われています。



オガ粉

●製材工場の仕事

大樹町には民間の製材工場があり、主に民有林から生産されるカラマツ材から工業製品などを入れて運ぶための梱包材を生産しています。原料となる丸太から皮をむいて製品をつくっています。加工の途中で出来る木の皮（パーク）は、細かく砕いて肥料などに利用できるように加工しています。



パーク



4. 国有林でのルールとマナー

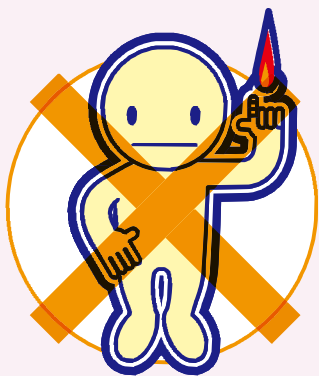
みんなで守ろう森林でのルールとマナー



ゴミはかならず持ち帰りましょう

森は生物たちの大切な生活の場です。

きれいな森を未来に残していくためにもゴミはかならず持ち帰りましょう。捨てられたゴミはヒグマやキツネなどを不用意に近づける原因にもなります。



火は山火事の原因になります

山火事の多くは森林内での火の取り扱い、特にタバコや焚き火の不始末が原因でおこっています。火の取扱いは、キャンプ場などの決められた場所と、確実に消火を確認するなど特に注意をしましょう。



樹木や花を傷つけることはやめましょう

森林に咲く野の花や樹木はとてもきれいなものです。

だからといって必要も無いのにむやみに採ったり、傷つけたりすると森の美しい姿が壊れてしまいます。この豊かな森がいつまでも続いていくよう、植物は大事に扱きましょう。



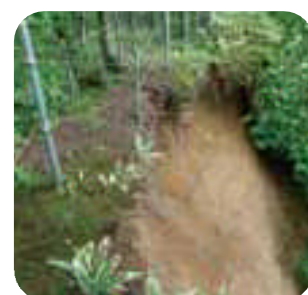
動物にエサをあげるのはやめましょう

森林を散策していると、ひょっこりとかわいい動物たちが顔を出すことがあります。かわいさのあまり、ついついエサをあげたくなりますが、そこはグッと我慢。野生生物にむやみにエサを与えると人を恐れなくなるなど、彼らの暮らしを変えてしまい、様々なトラブルの原因にもなります。出会った動物たちは静かに見守りましょう。



立入禁止、危険の看板に注意しましょう

立入禁止などの看板がある場所やロープが張ってある場所には入ってはいけません。安全のためにこのルールは必ず守りましょう。



立入禁止の危険な崖



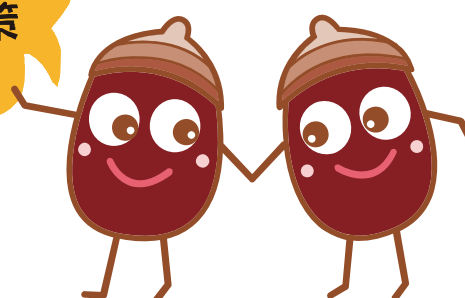
森林をよごさないために

はいせつぶつ
排泄物などで森林内をむやみに汚さないよう、森に入る前にはトイレをすませておきましょう。また、森林内でやむなくする場合は、危険な場所ではせず、携帯トイレなどをうまく利用するようにしましょう。



コタン広場にあるバイオトイレ

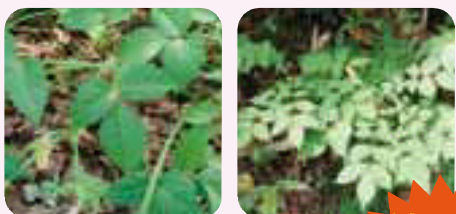
ルールを守って
楽しい森林散策



危険性が高く特に注意が必要な生物たち

ウルシ類

ツタウルシやヤマウルシなどは、触るとひどくかぶれることがあります。触らないようにしましょう。



左/ツタウルシ、右/ヤマウルシ

触らない!

ダニの仲間

春から夏にかけて、山林や野原のササ、歩道や車道の草むらにもついています。肌が露出している所をかまれることがありますので、なるべく肌を露出しない服装を心がけてください。かまれた場合は病院で適切な処置を受けてください。



スズメバチ

スズメバチは体長3~4cmと大きく、刺された場合には、激しい痛みとともに皮膚が腫れ上がり、最悪の場合、死に至ることもある大変危険な生物です。活動が活発になる夏から秋にかけては特に攻撃性が高まり注意が必要です。



危険!

- ハチは黒い色に反応しますので、白っぽい服装をして帽子をかぶりましょう。
- ハチは甘いものや香水のにおいに近寄ってきます。香水をつけない、甘い飲み物にはしっかりフタをするなどしましょう。
- ハチは急な動きに敏感に反応します。出会ってしまった場合は、急な動きをせずに落ち着いて行動しましょう。
「カチカチ」と威嚇音を発生するハチを見たら、いきなり逃げ出さず、目を合わさないようにしてじっとして、ハチが去ったら静かに後ずさりですの場を去りましょう。
ただし、ハチから攻撃を受けた場合は、ハチは仲間を呼んで次第に増えるので非常に危険です。一刻も早くその場から離れましょう。
- ハチに刺された場合に備え、ポイズンリムーバー（毒吸い出し器）、抗ヒスタミン剤（軟膏）を携帯すると良いでしょう。
- 緊急の際は安静にして速やかに病院で処置を受けましょう。

・救急/119番

・大樹町立国民健康保険病院 広尾郡大樹町暁町6番地2 TEL.01558-6-3111

ヒグマについて

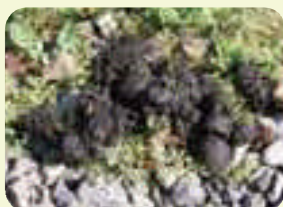
ヒグマは、本来むやみに人を襲うことの少ない平和的な動物ですが、その大きな身体と強い力は、人間にとってはとても危険な存在でもあります。

ただそれは森林を生活の場にするヒグマにとっても同様で、人間はできれば出会いたくない存在なのです。特に子連れのヒグマは、我が子を守るために近寄る侵入者に対し、攻撃的になることがあり、さらに危険度が増します。

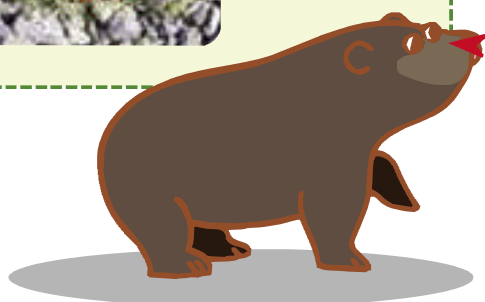
この遊々の森「カムイコタン歴舟の森」にもヒグマは生息し、遊歩道などの人間が利用する所にもフンが見つかることがあり、林内でヒグマに出会う可能性が十分考えられます。そうした、お互いが望まない思わぬ出会いを避けるために、森林に入る時は次のようなことに注意して、慎重な行動をとることが必要です。

ヒグマに出会わないために

- 音を出しながら歩きましょう。
人の存在に気づくと、ヒグマは人を避けます。熊鈴(くますず)やラジオ、あるいは、音を出しながら歩くなどして人の存在を知らせましょう。
- ヒグマの新しいフンや足跡、エサを食べた跡を見つけたら、すぐに引き返しましょう。
すぐ近くにいる可能性があります。慌てずに落ち着いて引き返しましょう。また、事前にヒグマの出没情報が多く出ているエリアには、最初から立ち入らないことも大切なことです。



ヒグマのフン



ヒグマと出会ってしまったら

- 大声、走って逃げる、石投げなどは、絶対にやめてください。
まずは落ち着くことが大事です。いきなり逃げるなどの行動をせず、様子を見ながら、静かにゆっくりとその場から離れましょう。
- ヒグマが近づいてきたら。
ヒグマの目をにらみつけてください。目をそらさずにヒグマの動きをみながらゆっくりと後退してください。この時、リュックや服などの持ち物をそっと置いてヒグマの注意をそらすと、時間がかせげます。ただし、置いてきた荷物を取りに引き返すことは絶対にやめてください。非常に危険です。

絶対に目をそらさない!

ゆっくりと後ずさる!

荷物などで気をそらす!

